小學修身書

初等科之部　卷一

大日本帝國圖書館
175
4
140
六五冊　一號　一架　八函

第二千三百四十九號
共六冊

明治十六年六月印行

小學修身書

文部省編輯局

文部省通覽所書

小學修身書

一此書ハ。古人の名言を輯録したるものなれば。小學童生をして常ふ之を暗誦せしめ。以て德性を養ふの資となすべし。小學讀本の如き。文字を教ふるを以て主眼とするものとい。其主意同じからず。

一此書ハ。童生の務めて暗誦せんことを要すといへども。是固と其德性を養いんがためふ。斯く

文部省通覽所書
教師須知七則

せしむるりのあれば。教師たるものを。其力を唯暗誦の教授のみに用ひず。善く童生平常の言行に注意し。成るべくい。編中の語を引證して。是を稱し。非を戒め。驅て而して善に之かしむべし。

一平常口授する所にして。德行に有益なる古今の人の行狀等も。務めて編中の語に引き當て。以て相發明すべし。

一編中擧ぐる所の諸章い。大抵男女ともに通じ用ふべし。故に兄弟といへる中に。姉妹もこもり。子弟といへる中に。女兒もふくめるを。と知るべし。

一我ゞ國の人々い。貴賤の別なく。幼き時より。皇室を尊ぶの念を興さずいあるべからず。是我ゞ國體の。外國と大に異なる所あるを以てなり。教師たるもの。反覆丁寧に此理を說明し。童生をして。熟〻是を會得せしむべし。

一編中の諸章い。皆先哲の言ふきば。其君といひ主君といへるい。大率當時の國君を指すものなり。然きども今日に於ていい。皆是を吾ゞ

皇上の上ふ遷し參らせべし。漢土ふても。孔孟の君ゑ事ふる道を說き給へるい。概ね前說の如きものあれども。後人い其道ゑ以て。天子ふ事へたり。是と異ふることなきあり。

一此ふ輯錄する所の先賢の名言い。則ち其著述の書中ゑ就きて。或い編章を節略し。或い字句を刪削して。以て之を採まり。然きども。務めて原文の主意を存して。著者の意を失ふとふ。

小學修身書卷之一

第一章

父母の恩きえまりなきこと。天地ふひこし。父母なくんば。何ぞ我あらん。其恩海よりふかく。山よりたかし。海山いかぎりあり。父母のめぐみいかぎりなし。いかんしてか其恩をむくいんや。たゞ孝

を行ひて。其恩の萬一を報ずべし。大和俗訓

さて第一は心得べきことは。いかなる父母の身を孝養すとも。其心を安んぜずしては。大なる不孝といふべし。何事も父母の教訓はたがへば。世法をおもんじ。よく身をまもり。家をたもつべし。其子のかくのごとくなるを見ては。父母の心中いかなるあんぜいかほどの

喜びとかなる。是を父母の志しを養ふといふなり。たゞ常に思ふべしをしむべきは。父母存生の日なるを。今此時ふ及びて。孝養をいたさぼば。父母死して後。いかゝ悔ゆとも。かへるべきや。六諭

衍義大意

第二章

親類一門多しといへども。父母を去り

ていに兄弟はご親しきいなしいかんぞおろかなすべけんや。大和中庸

兄弟の愛敬たこへバ兄い弟を愛それごも弟兄を敬いざるごきに兄腹をたて。又弟を愛せざるい道に非ず。弟い兄を敬へごも兄弟を愛せざるごきに弟腹をたて。又兄ば敬いざるい道に非ず。人い兎もこのれ角もあれ我い我が一ぶんの道をたくして。人の惡しきを學ぶべからず。大和小學

第三章

君の恩い其土地より生ずる穀を食し。其國に居るもの。みな君の德ば以たゞくなり。君なくれば。強きい弱きをおかし。智い愚なるものをあざむき。政教刑罰なき時い。手足を措く所なく。大亂の

本ゝり。日新館童子訓

國法をおそれ守り。上たる人乃行ひ。國家の政をそしるべからず。上をそしり。國政我そしるゝ。是大なる不忠不敬のいたりなり。つゝしむべし。家道訓

第四章

道の教へをうけたる師い。其恩こゝかきと君父よひとし。其苦勞乃恩わするべからず。大和俗訓

弟子の道。第一ゝ師を尊信して。先生の教諭ゝ戻らず。其教へを則ごして。胸中ゝ一毫も自見我立てゞ。ひたすらゝ師にうくる所の業を精勤して。身の及ばざる所をかへりみて。隱すとゝなく。犯すとなく。打ちあけて教へをこひ。聊かも驕慢の心ゝこゝる勿し。日新館童子訓

國ふてい主君家よてい父兄を始めこし。位高き人。道德の尊き人。學識の勝れたる人。年老いたる人をば。みふくあがめうやまふやうふ心がくべし。和語陰隲錄

第五章

親しき人を愛して。貴き人をうやまふいふふ及ばずう少き路人よ對すこも。其分よりたがひて。愛敬すべしふくみあなどるべからぶうこき親しきよより。貴き賤しきよりたこのひて。愛敬する厚薄いあるべからしご。愛敬せざるをかこのるべし。大和俗訓

仁心を以て物を愛するふい。人倫よ於てないこさらあつくそべし。人倫を愛するふも次第あり。先づ父母兄弟を愛す

るい。仁を行ふ本なり。主君い父母てりひこ。次ぎ小親類。朋友。次ぎ萬民を愛すべし。同上

又其次ぎに。鳥けだもの蟲魚を愛して。みだりに殺さず。次ぎて草木を愛して。みだりに伐らず。これ人我憐こ。物を愛する次第なり。同上

第六章

朋友のまじわりい。仁をたすくる德小して。信を以て司どる習ひなるに。友の我に信を以て来たりまじいらむを我。思ひねがふ如くに。先づ自ら。より。信を以て施すいまれなり。然るて。人に信をもち来たきこのしこいひて。我が方よりい。更小信を守りはじいるを。知らぬ人多し。大和中庸

ふかくよりて。能くまことなる道を以て守り行いずして。人はい我は能く信を守りはじまれこと。押し付けいふと。大はそむくなり。其はじまるべき友ふらば。先づこころよりの。信の道を守り施してはそ。又友も我は信を守り來たるべくなり。同上

第七章

人皆良知あり。教へざれども。幼より親を愛し。少し長じては。兄をうやまふ。聖人の教へは。天下の人の生まれつこのざるをを。ちらしめ行はしめんとふは非ず。生まままつこのざるをは教へてもふしぎたし。其人はもこより生まれはきたる。善心ある故本こして。みちびき開きて。是をたし廣めさせんこころ。大和俗訓

故に人と生まれては。必ず學だぞんば

あるべこのらば學ぶものい必ず道をもらずんばあるべこのらば道をもらば必ず行いずんばあるべこのらば同上

古の聖人すらかかる師ふもとがひて學びたまふ況や今時の凡人學ばざしてい道をもとりがたし小藝だふも師ふくい習ひなくしていふしこの名し學ばして道を得んをい萬々此理ふし同上

書を見て藝を學ぶい卑きより高きより登る近きより遠きふ至るの心ふり遠き處も出でたつ足元より初まりて年月をもつて高き山もふをのちりゑぢより成りてあま雲たふびくまでおひ登れると貫之も書ける實にさるをぞこのし女小學

わこのき子弟はこもごもら父母の家ふ在

りてい。父母まはこのへて。以ゆはふき城よしこす。又家事をよく勤免て。おこたらず。父兄の勞まを代をるべし。かく勤め行ひて。少しもひはたらば。書をよみ。學問し。或い藝を習ひ勤むべし。かくのごこく勤むれば。以こまふくして。妄念おこらず。家道訓

第八章

心の中いをでやこのふして。青天白日のごとく。明白なるべし。心の中まを物をたくをへ。おほひくらはすべからず。思慮い如このくをいしくをべし。ものさくあらくをべからず。大和俗訓

我が身の内。少しふる皮をだへ。髪の毛だふも。父母ふうけたれば。みぞりふそ。ふひ傷るい。不孝ふり。況や大ふる身

命を我が私のものとして慎まず飲食をほしいまゝにし元氣をそこなひ病ひを求め生まれつきたる天年をみじかくして早く身命を失ふは不孝なり愚かなるこの報

養生訓

我が身朝夕飲食の俸養いかろくして身をいたはり勞動すべし おろかなるこの身を安逸にすべからず

家道訓

第九章

善も惡も必ず小をもつて大をなしたる故に善い小なりとて捨てつべからず惡を小なりとて行ふべからず

大和俗訓

凡そ人の身のほど多くなれどもまづ先づいへば言と行ひとの二つにすぎず言をつゝしみて信をし行ひをつとめて篤くせしめば身修まる故に言行を

つゝしを篤くするい身を修むるの道なり。同上

言ふをいやすく行ふをいとゝし故ゝ言いむこゝろをいひ行ひい言よりそだすべし。かくのごとくすまば言こ行ひこ相違ふし。口ふ言ふをつゝまりありて身に行ふを足らざるを是言行のそむくゝるなりもづべし。同上

言をば必ず信ゝをべし。かりそめの少しふるをふも以つゝるべからず。其事い少しなりとも心を害するゝがい大なり。はたとの道を失へばなり。故ゝ萬の事うるいしくとも。いつゝるをいふを人ゝ非ず。心ゝ以つゝりと知らば以ふべからず。いつゝりと知りて我ゞ心をいざむくい。罪ふこのし。同上

第十章

怒りを以まもるの道理をいたす。凡そ怒りよりきて愚よりて怒り病ひよりて怒るい。是非乃論よ及ばず其外い。多く我を理よりて彼い無理ある故よりおこるあり。ものかるに無理をいふ人がらのものい。先づい愚人よりてもと取るりたらぬものゆきば反てふぎん

ゆるとよ思ふべきあり。和語陰騭録

然れば勝きたる人又を學問したる人ゆどならば。人よ對して是非をあらそひ。目を以からし。臂をかゝげて怒るをい。必ずあるまじき道理よ非ずや。同上

第十一章

人乃よきこゝろしきを見るもみな我が身の鏡あり。善を見てい。是を學び。惡を見

てい。我が身よりも是ありやとこのへりみるべし。かくのごとくなれば。人の善惡を見てをのれが身は益とする。人のわしたをそしらずして。我が身はこの人をみるべし。家道訓

德行い。我より上なる人を見てうらやこ。彼よりも及ばんことを思ふべし。をきてよりも乃ぞみて。我が身を高しとおもふ愚の

らば。大和俗訓

第十二章

世よい。身の福禄。我なごもなき人多し。上を見て。我が身をあきたらぬ思へば。大富貴なる人も。願ひ多く。其欲かぎりなくして。樂しをなし。下を見れば。分よ安んじて。樂しみ多し。或る人の歌ふ。上見きば。はてしもならぬ世の中ふ。わき

ほごもかた。人もかそあれ。とよめるが
おごし。大和俗訓

親戚朋友の貧しきを。我が物をから
ば。我が力ふるさがひて。たのたふべし。あ
たふきぞ。我が仁愛の道行れて。我が
心ふ快し。彼も我が恩を感ぜ。家道訓

人の器物をかりて。好むべからば。人
をさまたぐるを。遠慮すべし。入用あり

ごもかるべきかどい。不自由をからへ
て。人乃器をこのるべからず。もし已むを
我得ぞして。器をからぞ。そかなふ。このら
ば。用ひ終いらぞ。早く返すべし。同上

人の書をからば。そかふひ汙すべからぞ。
雨だ。水けぶり。猫。鼠。水。火。油膩。小兒
のふせぎをすべし。かきる書い。器ふ入
れおきて。見る時取り出だすべし。もし

そこなひ汙さぞ。おぎなひて。其あやまを謝して返すべし。是又百行の一なり。同上

小學修身書卷之一

定價金五錢八厘

明治十六年五月十一日出板板權所有届

文部省編輯局藏板

小學修身書

初等科之部　卷二

自 175 4 140 大
六 五冊 二號 一架 い函

第二十三百四十九號
共六冊